

揖斐川町学校教育の在り方審議会・脛永地区集会（議事録概要）

1 日 時 令和7年11月26日（水） <開会>19時00分 <閉会>20時15分

2 場 所 脛永公民館・ホール

3 出席者

審議会委員 小林 直樹、大西 恵子

事務局 教育長 香田 静夫、事務局長 所 貴宏、
学校教育課課長補佐兼係長 高橋 由利

地域住民 32人（池田町養基地区の住民を含む）

4 次 第

（1）開会挨拶

- ・ 大西委員より、開会の挨拶を行う。

（2）概況説明

- ・ 教育長より、「揖斐川町における学校教育の現状と課題」について説明を行う。

（3）意見聴取

住 民：私はかつて教員として勤めており、1,000人を超える大規模校や小中合併の坂内小中学校、さらに特殊な学校としてわかあゆ学園の大野分校にも勤めていた。そういった立場から考えを申し上げる。1点目に、なぜ統合という方向だけに視点がいつてしまうのか。同年代の子どもたちとの交流や社会性といった点では課題はあるかもしれないが、そういった小さな学校の中で育まれる力もある。例えば坂内小中学校の場合で考えると、実際に多くの子どもたちが高校に進学していたという点で学力の保障はされており、また地域が非常に学校を大事にしている、成長保障と言えるほどに子どもたちの社会性というものに苦心していたので、子どもたちはすくすくと育っていた。また、先生たちについて考えても、例えば部活動が1つしかないということなどにより時間的なゆとりが生まれ、その中で子どもたちと向き合う時間を多く確保できていた。文部科学省や県の教育委員会で定められた基準があるため、町単独で単純に決められるものではないと思うが、統合を検討するほどの小規模校にあるよさというものも考える必要がある。2点目に、大野分校に勤めていた時の話だが、赴任当初は授業がまったく成り立たなかったが、学習指導要領にただ従うのではなく個々にあった指導をしたところ、子どもたちの姿が変わり、公立高校に進学する子も出てくるようになった。学習指導要領はあくまで大綱であり、日本全体の教育に共通性をもたせるための方向性を示すものなので、定められている「教えること」という枠は大事にしつつ、もう少し幅をもって対応することは考えられないだろうかと思っている。3点目に、不登校について、不登校を生む背景には学校教育の枠だけでは絶対に解決できない問題があり、家庭教育、社会教育といったすべての取り巻く環境の中で考えなければいけないものである。それを踏まえると、揖斐川町が不登校の子どもたちに対してどういったスタンスで接しているのか、ということもこれからの学校教育を考えるうえで大切なことではないだろうか。不登校の子どもに対して、先生はどういった接し方をし、ご家庭や教育委員会はどう支えていくのか、学校教育の中に入り切れていない子

どもたちにどう対応していくのかについても検討が必要である。最後に、学校というものを今までの概念の中だけで考えていてよいのか。学校は同世代の子どもたちが集まる場というだけではなく、多種多様な年齢の人が集う場であり、子どもたちの力になると同時に高齢者にとってもエネルギーをもらうことが非常に多い場である。そういった家庭教育、社会教育という面からも考えると、学校やその施設・設備というものを残すという視点も見えてくるのではないか。また、これはかなり厳しい問題だが、養基小学校の形態である「組合立」というものを何らかの方法で解消は図れないのか、ということについてもよく検討していただきたい。

住 民：養基小学校区は非常に特殊な地区であり、私の子どもが養基小学校を卒業する時も「池田中学校に行きたい」と泣きながら懇願された記憶がある。私の子どもの場合は当時沓井の子どもと仲が良かったということや、池田町のサッカークラブに入っていたということがあったからだと思うが、恐らく今養基小学校に通っている子どもも将来的には中学校が別れることになり、本当に悲しい思いをする児童もいると思われる。そういった観点では、脛永地区の子どもは無条件で養基小学校に通うのではなく、早期の段階で他の小学校に行く選択肢を用意してもよいのではないか。もしくは、非常に難しいことだと思うが、脛永地区の子どもも池田中学校に通うことができるようにならないか、と考えている。そういったアンケートも未就学児や保護者の方にされてもよいのではないかと思うし、小学校がもしも統合されれば揖斐川町立の学校に通うことになると思うので、皆様、特に現役の保護者の方が納得できるような結論を出していただきたい。

教育長：中学校を含めれば岐阜県内に組合立の学校を設置している自治体は他にもあるが、組合立の小学校は県内でも養基小学校だけである。そうすると、小学校卒業後は住んでいる自治体にある中学校に進むことになり、小学校で友人と離れることを寂しいと思われる子どもが少なくないということは私も肌感覚でわかっている。それを乗り越えてそれぞれ新たな出会いをつくってくれることを期待しつつ、他の小学校にはない思いをもって卒業されているだろうということは理解している。

住 民：想像以上に急激に子どもの人数が減少している実態はわかったが、それに伴う教員数の減少も今後ますます進んでいくと思われる。その中で、その少ない教員を揖斐郡の3つの教育委員会が取り合うような形になってはいけないので、そうならないための簡単な解決策として、3つの教育委員会が1つになるというのはどうか。昔から「揖斐郡は一つ」という言葉があったが、ぜひ「揖斐郡の子どもは揖斐郡の先生全員で育てていく」という思いのもとで、教育委員会が1つとなって取り組んでほしい。町村合併はなかなか難しいと思うが、3つの教育委員会を1つにまとめていただくと何もかもうまくいくのではないかと考えている。

住 民：小学校のことだけではなくこの地域すべてのことと言うならば、私は子どもたちが地域を愛して居付けてくれる教育に力を入れてほしいと考える。小学校から中学校までよい子たちばかりだが、どちらかというと町外へ行ってしまう子たちばかりで、なかなか戻ってこない。この脛永地区でも子どもたちに脛永愛をもってもらうために様々な工夫をしており、脛永公民館にも一生懸命頑張っていたいただいている。そういった中で、小学校・中学校の統合や少子化によって地域の踊りや歌、祭りといった文化がなくなってしまうのではないかと心配していて、揖斐川町の住民は誰もが同じように感じていると思う。さらに、もうすでに学校が統合してしまった地域のお祭りはどうな

るのだろうか。そういうことを考えると、地域を愛する子どもたちを増やすことが教育の一環ではないかと私は思うので、統合の有無については十分検討していただいたうえで、どうなるにしても地域の文化が残るようにするとともに、子どもたちが地域愛をもち、それによって地域に残る、あるいは遠くへ行ってもまた脛永地区や揖斐川町に戻ってくるような形の教育が必要ではないかと考えている。

住 民：資料2ページに書かれている、「免許外教科担任」という言葉について説明していただきたい。また、この言葉に関連して、先ほどから統合や先生の取り合いという話があったが、逆転の発想で生徒が移動するのではなく先生が移動する、ということを考えていただいてもよいのではないか。

教育長：中学校の場合、教員免許は教科ごとに分かれているが、学校ごとの教員数は学級数によって決まるため、学級数が少ない学校では教員の配当数が少なく、すべての教科の免許を持った教員を配置できない場合がある。そのため、全学級に対してその少ない人数で授業をしようと思うと、その教科を持っていない先生が代わりに指導しなければいけない場合が生まれる。これが「免許外教科担任」と呼ばれるものであり、本来はあってはいけないことだがそれを認めざるを得ないため、県教育委員会が許可を出したうえで指導にあたるという場合がある。先ほどおっしゃった「先生が移動する」ということが「学校を統合しないで先生が各学校を回ればよい」という考え方であればおっしゃるとおりで、免許外指導を解消するために複数の学校を兼務して指導して下さっている先生が町内にもおり、必要に応じてそういった先生を配置することを考えている。

住 民：免許外教科担任について、揖斐郡は教員数が多い地域であり、退職した先生方もかなりの人数いらっしゃると思う。町の財政も厳しいとは思いますが、独自で予算を確保してそういった方々を有効活用すれば、免許外教科担任を解消することはできるのではないか。今は様々な支援員や非常勤講師も減ってきているので、そういった方々と同じように町の負担で人員を確保し、免許外教科担任の解消を図ることも可能だと考える。

教育長：本来学校の教員には県から給与が支払われるが、先ほど申し上げたとおり必ずしも県がすべての教科担任を配置できるわけではないため、町の財政で教員を配置している場合がある。揖斐川町では約80人の先生を町費で配置しているが、その中には今ご指摘があったような免許外教科担任の解消のために配置している先生も数名おり、この方たちは教員を退職した教員免許を持っている方なので、すべての授業ではないが受け持ってもらえる体制をつくっている。町費での教員配置には取り組んでおり、小規模校だからこそ教員の専門性の配置となるよう、適材適所となるように工夫をさせていただいている。

住 民：私は民生委員・児童委員を10年勤めているが、養基小学校の子どもたちは本当によい子ばかりで、やんちゃをする子もいないし、遅刻することもなく時間どおりには来るし、言うことも聞いてくれる。その中で、養基小学校について以前から思っていたことだが、運動会でも池田町の子どもと揖斐川町の子どもで分かれるなど、どこか競争意識があるように感じていた。そういう意味ではなかなかよい環境で子どもたちも育っていると思うし、中学校に進学する時に2つの中学校に分かれても高校で一緒になる子たちも結構いて、周りが思うほど本人たちは悔やんでいないと思っている。ただ問題もあり、養基小学校は「池田町にもつかず揖斐川町にもつかず」となっている。例えば、揖斐川町に大雨警報が出た場合、揖斐川町の他の学校が休みになっても養基

小学校は通常どおり授業をすることになる。これは養基小学校が池田町内にあり、池田町にはアメダスがない関係で大雨警報が出ていないことが多いからである。一方で、池田町で水位が一定以上になった時には、養基小学校が休みになったこともあった。以前も養基小学校の教育長に伝えたが、今も変わっていないと思うためこの問題も解決してもらいたいし、どっちつかずになってはいけいないので、池田町、揖斐川町、養基小学校で話し合っていていただいて何らかの統一見解をもってもらった方がよいのではないか。統合の話以前に、「養基小学校が2つに分かれるのではないか」など様々なことを考える方もいて、やはり不安なので、各教育長の間で考えていただきたい。

住 民：養基小学校の校長という立場からお伝えすると、そうした警報時の対応については昨年度から学校運営協議会でも話題になっており、子どもたちの安全を第一に考えてほしいというご意見をいただいて、組合と各町の教育委員会へ私たちからも意見を提出した。最終的には学校長が判断すればよいということにまとまったので、今年度も1回、池田町に警報が出ておらず揖斐川町に出ているという時に休校にしたことがあった。現場判断をすることも組合立として大事だという意見もいただいているので、少しずつではあるが皆様のご意見をいただいて改善していきたいと思う。

住 民：揖斐川町では統合についての検討をこれからされるのだと思うが、池田町は令和13年度を目処に2校にするという形で、ある程度統合に向けて決定しているような状況である。また、大野町ももう令和13年度に学校を統合する方針である。そこで、揖斐川町としてのスケジュール感を知りたい。また、今後子どもたちや保護者の方へのアンケートも行われると思うが、大切なのは教職員がどういうことをお考えか把握することである。最後に、先ほど話題に出た坂内小中学校について、当時地元の高齢の方々が非常に子どもを大事にしておられたが、今はもうなくなってしまった。確かに人口が減っていくことは仕方がないことだが、ただ人数に合わせて統合するというだけではやはり地域の賛同は得られない。養基小学校に関しては150年という歴史がある。他のどの学校にも歴史はあるが、養基小学校は明治初期にできた2町の組合立という特殊な学校なので、最終的にもしも統合する場合、教育を通じて地域の伝統をどう子どもたちに託すのか、養基小学校の伝統や歴史というものをどのように残していくのかということをもまず先に打ちだしていくことが必要である。また、統合のメリットやデメリットを教育委員会として我々に示していただいて、それを地域住民で検討していくことも必要ではないかと考えている。

教育長：まず、揖斐川町のスケジュールの話の前に、今回このように地区集会を開催させていただいている状況をお話する。これは池田町も同じだったかと思うが、まずは様々な角度から学校教育の在り方を考えていただくために審議会という第三者機関を設置した。そして、町長から審議会に対して、今後どういった学校教育を行っていくとよいか検討するように諮問させていただき、それに対して2年間かけて審議し答申していただいて、それを受けて令和9年度には町としての考え方をお示するというスケジュールで取り組んでいる。池田町や大野町に比べて歩みが遅いというご指摘はあると思うが、揖斐川町はすでにいくつかの学校統合を経験していること、池田町や大野町に比べて広い面積を持っており、様々な地域に存在するそれぞれの文化や歴史を大事にしながら今日まで至っていることなど、地域性がまったく異なっている。そのため、この後2町と同じように何年後にどうするという事は、まだこの場ではっきりと申し上げることはできない。ただし、少なくとも令和9年度には町としての

方針を出すということで準備を進めているため、スケジュールについてはここまででご容赦いただきたい。次に、やはり地域の子どもたちなので、地域を大切にする子どもになってほしいと思っているが、岐阜県は各地域でふるさと教育を大事にしているので、これは恐らくどの学校や地域でも前提として同じように思っていると考えている。ただし、学校の規模が大きくなると、「地域」というものもこれまでの少し小さな単位からより大きな単位になるため、「自分たちの地域の文化はどうなるのだ」というような心配をされる方も少なくないと思うが、学校は様々に工夫をしている。例えば北方小学校は、北方地区と坂内小学校、藤橋小学校、久瀬小学校が統合しているが、どの地域の文化も大事にするような教育を進めている。学校は年間で1,015時間しか授業時間がなく、当然学校だけですべての文化を扱うことは難しいため、地域の皆様と協力しながら進めていくことになると思うが、統合しても「地域の学校である」ということはこれからも引き継いでいくことになるだろうと考えている。

事務局長：アンケートに関するご意見について、すべての教職員の方に対してもアンケートをさせていただいている。現在集計・分析中になるため、時期が来たら分析結果を報告させていただく。

(4) 閉会挨拶

- ・ 小林委員より、閉会の挨拶を行う。

以上、閉会